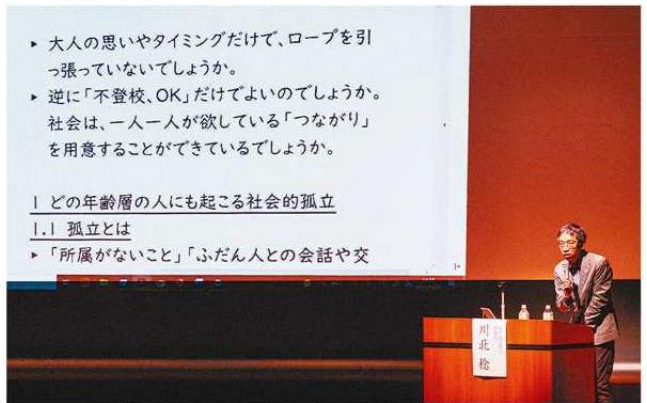


## ひきこもり・不登校にもつながりを

### 春日井で愛教大の川北准教授講演



不登校やひきこもりへの支援のあり方について話す川北准教授＝春日井市のレディヤンかすがいで

スカッションを実施。熱心に話を聞き、メモを取る来場者の姿も見られた。  
(水越直哉)

「ひきこもり・不登校の『これから』を考える」と題したシンポジウムが25日、春日井市鳥居松町のレディヤンかすがいであった。ひきこもりの実態に詳しい愛知教育大の川北准教授らの意見に、来場した約90人が耳を傾けた。春日井市の支援団体「WANうえい」が主催した。

講演した川北准教授は、不登校経験者が書いた「無理に学校に行かされるのは嫌だけど、つながりを絶たれるのも悲しい」という趣旨の文章を紹介。そうした事例を参考に「(当事者が)何かしたいな、人と会いたいな、と思った時にどういうつながりがあるのか。それを準備するのは大人の責任だと思います」と述べ、望まない孤立を防ぐには一人一人に見合った「つながり」を用意することが大切だと説いた。

その後、川北准教授や厚生労働省ひきこもり支援専門官の松浦拓郎さん、15分から働けるカフェを春日井市内で運営する小栗加奈さんらが登壇してパネルディ